

浜コミ協だより

平成29年度
第14号

この広報誌は新潟市の地域活動補助金を受けて発行しました。

地域の子と子どもたち



浜浦小学校
校長 政谷 英樹

これからの社会を担っていく子どもたちが、心も体もたくましく成長し、希望に満ちて生きていくことは、私たち大人の願いです。

浜浦コミュニティ協議会をはじめとした地域の皆さんには、様々な活動で子どもたちを支えかわりをもってもらっています。それは、子どもたちが地域の宝物、かけがえのない存在であると思いきや、ほかにありません。

海浜植物園の植樹や松林の整備、関屋海岸清掃では、多くの子どもたちが保護者の皆さんとともに参加しました。浜コミ合同演奏会では、浜浦シンフォニー器楽部の子どもたちが地域の皆さんの前で心に響く演奏を披露しました。毎回、趣向を凝らしたスポーツ大会に、

子どもたちは体を動かすことの喜びや楽しさを感じています。

ふれあいスクール「浜浦ともだちひろば」では、学校の職員がかかわることの難しい放課後に子どもたちが活動する場を整えてくださっています。

「はまうら見守りたい」の皆さんは、街頭に立って子どもたちの登下校を温かく見守り交通安全指導をしてくださっています。

地域の皆さんから見守られて育った子どもは、家族以外にも自分を気にかけてくれる大人がたくさんいて、自分が大切にされていることを自覚します。地域を愛し、地域の一員としての誇りと喜び、自信をもちながら、自己肯定感を高めていくものと考えます。地域の力にとても感謝しています。

耳よりな話 シリーズその5 「第2ひまわりクラブ」について

部会長 家坂 博幸

「ひまわりクラブ」は、放課後児童クラブとも言つて、就労している保護者さんの子供たちのために、放課後の保育や生活の場を提供しているところです。浜浦地域では関屋公民館2階に施設があります。中央区25施設中トップクラスの狭さとなっていました。また、住んでいる地域によつては、低学年の子供たちが家から学校、公民館と、どんな遠い所に移動させられ、家に戻るのが大変な子供さんもおりました。そこで、浜コミ協は平成26年1月、クラブを運営している新潟市社会福祉協議会、新潟市福祉部とも未来課（現こども未来部）とも政策課と協議して、平成27年4月から浜浦小学校内に「第2ひまわりクラブ」が新設（下の写真）されました。第1と第2で受け入れる生徒さんは地域別に区分けされ、運営され



第2ひまわりクラブの建物（中央）

供さんにとって、移動も少なく、環境も変わらず、安心して過ごせる場所で、地域の保護者さんから好評をいただいているそうです。

編集後記

編集長 大澤 尚

広報誌の原稿を担当された皆様にはご協力を頂き有難うございました。お陰様で浜コミ協だより第14号が立派に発行できました。お礼申し上げます。

さて、余談になりますが、毎日、新聞・テレビで殺人、イジメ自殺、セクハラ、詐欺、捏造…と紙面を賑わしています。

お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦氏はそれぞれの患部にパンソウコを貼っても治らない、深部を根本的に治療しなければならぬと言っている事をおっしゃっています。

今年、建国二六七八年、二月二日は建国記念の日。政府主催の式典はズートない。四月二八日は、日本が独立した日。祝日でもない。政府の式典はあるようですがよく知られていない。

今日、良き日本の伝統文化、縦軸が喪失してないでしょうか。暗いニュースを聞くたびにそのことを強く思います。

第9回浜コミ合同演奏会、来場者350名を迎えて実施

部長としての浜コミ合同演奏会

浜浦シンフォニー
部長 石山 玲衣

私は今回、特にきんちようをしました。なぜなら浜コミ合同演奏会に出演できる最後の年だからです。

私たち浜浦シンフォニーは週二回という短い時間の中、一人ひとり個人練習をしたり、みんなで合奏をしたり、がんばって練習してきました。その成果をたくさんの人に聞いてもらえると、とてもうれしいしドキドキするし、とても複雑な気持ちでした。

でも、リハールで先生の「楽しんで笑顔で演奏してね。」という一言で気持ちになりました。せつかく来て下さったお客さんが楽しかったなあと思えるような演奏をしようと思ったからです。



浜浦シンフォニーの演奏風景

そのおかげで本番では楽しくノリノリで演奏ができました。

昨年、十一月には、私たち器楽部にとってとても大切な「新潟県器楽合奏大会」がありました。この時は、セントポール組曲を演奏しました。第一楽章は力強く、対照的に第二楽章は優

地域に貢献する演奏

関屋中学校 吹奏楽部
部長 川瀬 彩夏

今回も「浜コミ合同演奏会」に参加させて頂き、ありがとうございました。地域の皆さんに演奏を聴いて頂けたのは、部員にとって、とても良い経験になりました。



関屋中学校の演奏風景

四十九名全員でステージに上がるのは、今年度の部活が始まってから、今回が初めてでしたが、関屋中の吹奏楽部らしい演奏が、出ました。また、地域の皆さんが手拍子をして下さるのを見て、とても嬉しくなりました。

今年、三年生は引退となりますが、後輩達にはよりよい演奏を地域の皆さんに届けられるよう、今後も練習を頑張っていくてほしいです。

地域とのつながりを大切に

日本歯科大学新潟生命歯学部
今田 和隆

今回（平成29年）は五十嵐先生と桑原先生バンドと当学の院生&一年生で結成された学生バンドの2つで参加しました。学生バンドのドラムには一年生に加わってもらいました。

先生方のバンドでは五十嵐先生のアルトサクソと桑原先生のピアノ、三線のコラボレーションが温かい雰囲気を出していました。

学生バンドはあまり時間がながいかな、一生懸命練習し、演奏しました。曲も皆様に馴染みのある曲を選びました。

今年、学生バンドの人数も増え、盛大になると思います。

今年もまたよろしくお祈りします。



五十嵐先生（右）と桑原先生の演奏風景



学生バンドの演奏風景

自主防災活動紹介

浜コミ協には16の自治会、町内会が所属しています。この内、6団体が自主防災組織を立ち上げ、訓練に励んでいます。今回は以下の団体の活動状況を報告させていただきます。

当町内会は平成17年に自主防災組織を設けて以来、原則として毎年防災訓練を実施しています。今年(平成29年)も10月1日、浜浦小学校の施設をお借りし、約120名の町内の皆様の参加を得て行いました。各家庭での安全確認、トランシーバーでの情報収集伝達、一時集合場所から避難場所への誘導、初期消火訓練、応急担架作成搬送法、三角巾訓練、濃煙体験、応急手当(心肺蘇生法、AED取り扱い)、アルファ化米炊き出し、消防自動車機能見学等を約3時間掛けて行いました。訓練指導には、中央区役所総務課安心安全係の職員の方、中央消防署文京出張所の皆様、新潟市消防団関屋分団の皆様が協力頂きました。改めて御礼申し上げます。



訓練の様子

平成29年9月10日(日)に第6回町内防災訓練を行いました。一、訓練の目的は、佐渡沖で大きな地震があり津波が発生し、市より避難の指示が出たとの想定の下、災害時避難所である浜浦小学校へ集まる訓練です。そして近所とお互いに助け合う関係を作ることです。二、訓練の内容は、「てんでんこ」避難訓練」とし参加者が「てんでんこ」に集まる初の試みで行うこととし、7月中旬に防災委員会議を開催し訓練内容の概要と委員の役割と担当を決め確認しました。



訓練の様子

浜浦町自治会は、平成22年6月25日に自主防災計画を立案し、防災会を立ち上げました。この翌年3月11日に東北地方太平洋沖地震が起き、その年の防災訓練は消防署の協力で地震車にて震度7の揺れを体験し、AEDの使用法、毛布と竿を使って簡単に作れる担架の使い方、本格的な救助の仕方を教えて頂きました。その後は毎年、実際に被災地へ援護に行かれた方のお話や市の職員に来ていただき、浜浦町内が津波の災害に襲われる危険がある場合、どの場所が一番安全であるか等、教えていただきました。昨年(平成29年)は、新潟中央消防署にて、火事などで煙が蔓延する中を安全に避難するにはどうしたら良いか、実際に消防署内で体験してきました。今年も防災マイスターの小池氏に家庭で作れる防災グッズやアルファ化米の炊き出しと試食を行いました。今後は高齢者の避難を念頭に避難訓練の実施を考えています。



訓練の様子



町内会会長
相馬 卓

関屋松波町三丁目町内会



自治会会長
大堀 隆夫

信濃町二区自治会



自治会会長
影山 朝子

浜浦町自治会

浜コミ協に 求められるもの



会長
田村 良三

小学校区を単位とした浜浦小学校区コミュニティ協議会(以下浜コミ協)が組織され10年以上が経ちました。しかし、町内会長となつて日も浅く、浜コミ協の組織体系や役割・責務もあまり理解できていないまま、私になりなりました。五里霧中とは正にこのことと思いつつも、前会長や諸先輩方からの指導を受け、しばらくの間は種々の事柄を学ぶ期間として、何とか船出をしました。しかし、時の流れは速く、次々と新たな事柄が生じ、困惑しています。

また「健康寿命の延伸」も現代社会に要求される大きなテーマとなり、健康で長生きな人々の生活する地域の構築もコミ協に期待される重要なテーマとなっています。これらの事柄に対して、浜コミ協は五つの部会を設けて活動しています。特に「三校合同演奏会の開催」や「汐見台協働の森づくり事業」などは、地域と学校との協働事業として高く評価される。他の地域にはない自慢できる事業となっております。今後は、育成会や他の協議会との協力体制を強め、地域全体が一体感の持てる事業を展開し、活気があり、見守り合う地域づくりに努めたいと思います。皆様のご意見・ご提案をお待ちしております。

浜コミ協 平成29年度総会報告



副会長
影山 朝子

平成29年度の浜コミ協総会が昨年、4月26日(水)、午前9時30分から関屋地区公民館集会所で開催されました。渡部会長を議長に選出後、総会議事に入り、平成28年度事業実績の報告と承認、監査報告を受け承認されました。次に平成29年度新任会長の選出に入りました。先の役員会に於て次期会長候補として田村良三氏が推薦され、総会にて承認されました。

なり平成29年度事業計画の審議に入りました。平成29年度組織(案) ※組織は3頁を参照願う。関係団体担当者(案) 平成29年度事業計画(案) 平成29年度予算(案) 浜浦小学校区コミュニティ協議会則変更(案) 浜浦小学校区コミュニティ協議会内規変更(案) が提示され審議の結果承認されました。

平成29年度収支予算

収 入		
項 目	金額 (円)	
市助成金	運営助成金	893,000
	地域活動補助	200,000
自己資金	会費	160,000
	防火連合会費、他	89,000
	古紙行政支援金	130,000
	日赤交付金	48,000
	利息	10
	繰越金	851,758
	合 計	2,371,768

支 出		
項 目	金額 (円)	
市助成金	総務部会	73,000
	広報紙	220,000
	環境整備部会	20,000
	文化・スポーツ部会	200,000
	防災部会	10,000
	事務費	60,000
	手当費	240,000
自己資金	合同演奏会費	270,000
	文化・スポーツ部会	40,000
	福祉・教育部会	60,000
	防災部会	91,000
	事務運営費等	235,000
予備費	852,768	
合 計	2,371,768	

防災部会報告



部会長
濱田 芳男

平成29年も災害(地震、台風、洪水等々)により多くの物的・人的被害が発生いたしました。災害はいつどこで起こってもおかしくない状況で、ミサイルも飛んでくるような状況であります。新潟市等の自治体が単独で対応することは不可能です。災害発生から行政の救助は三日間要すると言われております。その間は自己努力が要求されます。

市内の各自治会では地域による自主防災組織を結成しています。浜浦地区は16自治会中6自治会が組織を結成しており、毎年情報収集伝達訓練や初期消火等々の訓練を行っています。課題は若人の参加が少ないこと、要援護者、高齢者の救出をどうするか等々沢山ありますが、訓練だけでなく隣人同士の助け合いが大切と思われれます。

災害時には自分の命は自分で守ることを心得て的確な情報をいち早く確認し早期に避難することが大切であります。

最後に消防署から表彰を受けましたのでお知らせします。

一、八百日無火災表彰
二、勤続功労賞 泉 照氏
(関屋上本村自治会)

福祉・教育部会報告



部会長
平間 四季子

私は、浜浦小学校区コミュニティ協議会に「浜浦地区社会福祉協議会」から参加し、活動しています。今回はちいきのつどい「歌って、笑って、楽しんで」を報告します。この行事は、平成29年11月23日(祝)関屋地区公民館において開催されました。「縁竹」さんの楽しい歌声喫茶で幸せな気分になり、「三流亭楽々」さんの落語で大笑い、「アマリア」さんの美しい歌声にうっとりして幸せな時間を過ごしました。

【地域の枠をこえて、どなたでも参加でき、地域の方々の交流を深め、楽しいひと時をちいきの皆さんで過ごして頂きたい】との思いで浜浦地区社協が企画し、浜浦地区民児協が協力して開催しました。浜コミ協は、チラシを回覧板にて宣伝し、関屋地区公民館もホール・控え室等々を協力して頂きました。地域の大勢の方々のご協力があり盛会になったと感謝しています。

その他浜コミ協「福祉・教育部会」は地域の事業に「助成」「後援」等々を行いました。



アマリアさんにおどり

総務部会報告



部会長
大澤 尚

総務部会の年間行事の主なものは定例会、広報誌発行、地域活動ふれあいの集い等であります。何といたっても広報誌発行は大勢の方々の協力なしにはできません。毎年、立派な広報誌の発行ができることに感謝致します。

本年度の中央区地域活動ふれあいの集いは一月十一日、ホテルイタリア軒、三階サンマルコでした。主な次第は、自治会長等永年勤続者(一〇年・二〇年)への感謝状等の贈呈、一、講演「砂の町・新潟の楽しみ方」講師は路地連新潟の野内隆裕氏でした。他のコミ協からの広報誌も入手でき参考にさせて頂きました。昨年度までは新潟ユニゾンプラザでした。

さて、浜コミ協の定例会では司会進行役をさせて頂いています。そこで感じたことを少し述べたいと思います。会議は出来るだけ短く、そして中身が濃いのが望ましいと思います。市に関する意見・問題を定例会で発言されても解決しません。担当課に直接問い合わせるか又は、市長・区長に手紙を出し回答を得た方が、よろしいのではと思います。その結果、必要があれば定例会で話しをして頂く。進行もスムーズに行くと思えます。

今後、定例会の運営(議題)等について検討されることを望みます。会議の進行にご協力頂きありがとうございます。

平成29年度浜コミ協組織



浜コミ協会員写真

(印 役員)

会長	田村良三	
副会長	影山朝子	
監事	椎谷光男	塩野健一郎
事務局長	三添敬市	
総務部会	大澤 尚	全会員
環境・整備部会	家坂博幸	塩野健一郎
	影山朝子	坂井 正
福祉・教育部会	平間四季子	政谷英樹
	池田伸一	小林 勇
	榑谷 努	藤本麻由美
文化・スポーツ部会	佐藤敏夫	中静浩一
	田村良三	倉元幸二
	相馬 卓	葛綿光司
防災部会(防犯・防火)	濱田芳男	大堀隆夫
	椎谷光雄	後藤秀成
	渡辺 守	
浜コミ協支援市職員	小出亮介	止沢かえで



区長ミーティング報告



部会長
大澤 尚

昨年(平成29年)、十二月二十二日関屋地区公民館集会所にて中央区長とのミーティングを実施。中央区長の石塚さんは風邪で急ぎよ欠席されましたが、地域課戸嶋課長補佐、建設課高島課長補佐を始め七名の出席を頂きました。当協会の自治会など九団体からの要望書について話し合いを致しました。

要望を列記します。一、やすらぎ堤の照明の件 二、コミュニティ協議会並びに自治協議会の組織の件 三、市民が一体となる行事の実現に向けて 四、区民協働森づくり事業 五、災害時要援護者名簿の名称変更の意図は 六、地域ミーティング in 中央区の開催の件 七、関屋公民館の改善検討の件 八、公園の維持管理の件 九、資源ごみの集回回収の推進策・松くい虫の薬剤散布の件 十、信濃公園のトイレ及びスベリ台の更新の件 十一、関分記念公園銅像の修理・碑文の補記の件 十二、市道の管理・市役所前の噴水の件 十三、公園内のポールの使用について等の要望がありました。ここで区役所の回答を二、三紹介します。一、やすらぎ堤の照明の件では市役所は予算が厳しい状況にあるので現段階では困難。二つ目は、六、地域ミーティング in 中央区の開催の件では市長は年二回ミーティングをするが、春は街づくりトークとして発言者はフリーであること、冬は地域ミーティングで議題を設定し発言者を限定することとした。三つ目は、十三、公園内のポール使用の件ですが、担当課からはスッキリした回答はありませんでした。公園内の事故について誰が責任をとるのか。公園管理者なのか、事故を起こした当事者なのか、これらが念頭にあるのではと思われました。子供達の健全な発育のためにも他人に迷惑をかける範囲内で使用させてもよいのではと感じました。自宅前の道路は交通量も少ない子供達が多い遊ばせなどしていただきます。



区長ミーティングの様子

要望全体として、回答はいかがだったのでしょうか。ご苦勞様でした。

平成29年度浜コミ協部会報告

環境・整備部会報告



部会長
家坂 博幸

浜浦地域では、三つの目標を掲げて「森づくり」をおこなっております。

一 防風効果を高めるため、林帯幅を広くする植樹事業(図①の赤い点線区域)

第一期 「区民協働森づくりモデル事業」(平成25～27年)



図① 浜浦地域の森づくり地図

新潟地震の被災者住宅として建設するため伐採された松林の復元です。中央区自治協議会「水辺とみち部会」から中央区に提案されました。(平成22年)。

て、中央区に組織された検討委員会の答申を受け、「特色ある区づくり」事業の一つとしてスタートしました。地域の多くのボランティアの方々(延1200人)の活動で松苗1700本(3年間)が植樹されました。夏の暑さや冬の強風にも負けず、しっかりと根付き、元氣よく成長しております。

第二期 「区民協働森づくり事業」(平成29年)

海浜植物園の隙間の空いている松林を塞ぎ、さらに海に向けて林帯幅を広げていく松苗植樹事業です。これまではモデル事業でしたがモデルがとれた事業となりました。(写真①②)

10月6日(金)に関屋中学校の生徒さん(100人)が、14日(土)には浜浦小学校や地域の方々に参加して800本の苗を植樹しました。この場所はアメリカ軍の通信基地があった跡地です。本事業については一期から中央区建設課が事務局となっており、浜浦小学校区コミ協、浜浦小学校、関屋中学校、新潟大学



写真① 海浜植物園の植樹

農学部、新潟野鳥の会、海浜植物園の整備活動をおこなっている「県自然観察指導員の会」、地域緑化推進協議会、NPO「ウッドイア阿賀の会」等の団体で構成された「汐見台エリア連絡協議会」で検討して実施されております。

二 繁殖旺盛なニセアカシアから松林を守る整備活動

(一) タコ公園裏のニセアカシア林の伐採と松苗植樹(平成23年～25年)



写真② 海浜植物園の植樹

中央区建設課の重機による抜根の後、浜浦町自治会が中心になって、浜浦小学校、関屋中学校、新潟大学農学部、生徒さん達、NPO法人「ウッドイア阿賀の会」の団体に

文化・スポーツ部会報告



部会長
佐藤 敏夫

文化・スポーツ部会のメイン行事、第9回浜コミ合同演奏会が、平成29年9月18日開催されました。来場者は350名で、出演者は浜浦シンフォニー、関屋中学校吹奏楽部、日本歯科大学軽音楽部による素晴らしい演奏でした。

出演者をご指導された先生方、保護者、ボランティアの方々、浜コミ協スタッフの支援により行われました。来場者のアンケートでは「感動した・来年も楽しみにしている・中学生のコーラス部も参加してほしい・高校生の参加してほしい」等が有りました。来年は節目の10回となります。アンケートその他を基に本年中より計画し、よりよいものに行いたいと思います。

平成29年10月9日に行われた新潟シティマラソンのボランティアに参加しました。浜コミ協、浜浦小学校スポーツ振興会員、関屋中学校陸上部など総勢111名で給水や走路の安全確保等を行いました。

平成29年11月12日にフロアカーリング大会を開催しました。小学生から年配の方まで気軽に楽しめる様に考案されたスポーツです。参加者は70名でした。浜コミ協文化・スポーツ部会は地域に密着した事業で合同演奏会や、ふれあいスポーツ等健康寿命を伸ばす一助となればと思いい活動を行ってきました。

混合林である、子供の松林(写真④)をどんどん活用してください。

三 「ネムの森」整備

この森は浜浦小学校グラウンドの裏手にあり、小学校の自然学習林として活用されてきました。長い間、自然のままにしているうちにジャングルになりました。浜コミ協と中央区建設課、小学校が協議をして、新潟大学農学部の学生さんが3年かけて間伐してくれました。(平成25年～27年、延120名)

夏の暑い日に、東屋のベンチに腰を掛けてみると、心地よい微風が涼しさを運んでくれます。息苦しかった森が蘇ったと感じるようになりました。

浜浦小学校のグラウンドから、直接、東屋に通じる小径があります。数年経つと雑草が繁茂して通り難い状態になります。2年ごとに除草や枝切りをして整備しています。(写真⑤) トカゲを探している子供達にありました。そんな子供達をみてみると整備の疲れも癒されます。地域の森づくりボランティア活動をを通して、地域の方々の絆が深まることを願っています。



写真⑤ ネムの森



写真③ 木工クラフト教室(子供の松林)



写真④ 子供の松林

呼び掛けて植樹しました。その後、浜浦地域で行われてました森づくりボランティア活動の原型がこの活動から生まれ育ちました。平成28年に管理が浜浦町自治会から中央区建設課に移管されました。

(二) 「子供の松林」の整備と活用

ネムの森の右手にある松林は繁殖力旺盛なニセアカシアが混在したジャングルでした。そのため松の成長が遅く、細い木が多い松林でした。平成24年から中央区建設課、NPO法人「ウッドイア阿賀の会」にお願いしてニセアカシアを伐採し、残っている根株を人力で掘り出しました。ニセアカシアは手を緩めるとすぐ繁殖します。浜コミ協環境整備部会の地まな整備は続いております。

平成28年からガール・スカウトさんが草刈り前の整備に参加して、その後、木工クラフト(写真③)やテント張りの研修の場として活用されております。海岸への道路やまわりにある遊歩道からの見通しもよく、子供の視線の位置に枝やつまづく根株もない、子供たちにはやさしい松林です。常緑広葉樹と松林の